

## IV 国境について

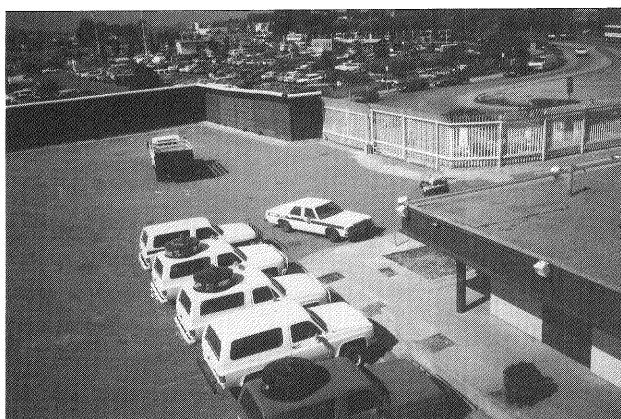
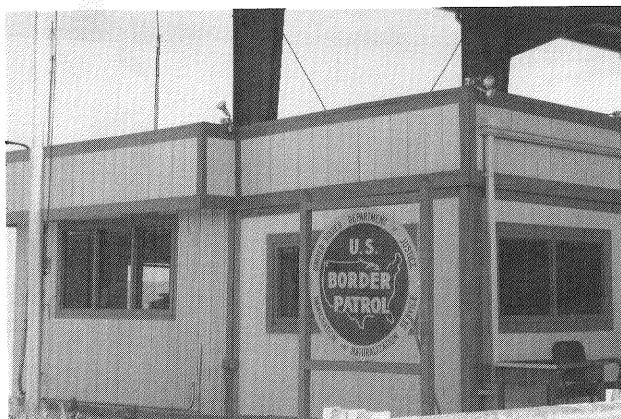
### 1 メキシコ国境（カリフォルニア州、アリゾナ州、テキサス州）

#### (1) カリフォルニア州サンディエゴ

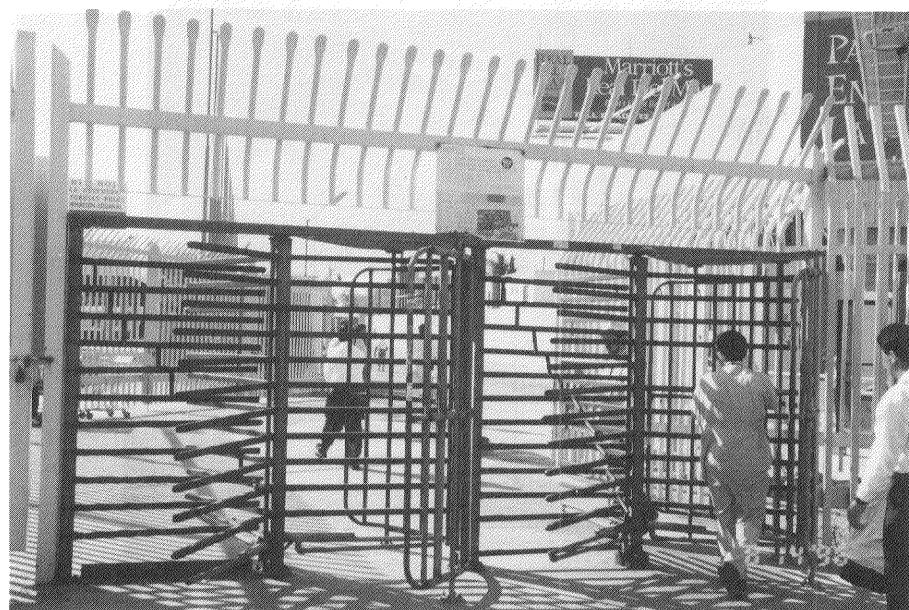
下の写真は、アメリカ大陸西海岸沿いに、北はワシントン州のカナダ国境から、南はカリフォルニア州のメキシコ国境に至るまで、およそ1,400マイル(約2,250キロメートル)に渡って南北にほぼまっすぐ走るインターフェースト5号線の最南端、カリフォルニア州サンディエゴ市内でみかける道路標識である。



国境警備隊（ボーダーパトロール）に追われて、高速道路を無謀に横断し、事故にあう不法移民が多いいため、運転者に「無理に横断する不法移民に注意」するように促すものである。そもそもインター州は、この近辺では制限速度が時速65マイル（時速約105キロメートル）の自動車専用道路であるから、横断者がいること自体運転者の想像を超えており、非常に危険である。こういう標識が存在していること自体、メキシコ国境からの不法移民が日常的現象であることを自ら物語っているものといえよう。



サンディエゴの市街地を過ぎ、さらにインターフェーストを南に走ると、メキシコ国境となるが、メキシコへはまったくあっさりと入国することができる。自動車はそのまま道なりに検問所を通ればいいし、歩行者も、回転式の一方通行の金属ゲートをくぐりぬけるだけで、メキシコ側の検査は何もない。メキシコ入国はフリーパスである。



ところが、メキシコ国境の街ティファナで所用を済ませ、今度はアメリカに入国する段になると、一転して厳しい審査が待っている。自動車は国境検査所に長い列を作り、旅券や査証を見せ、入国の目的などを検査官に告げなければならない。歩行者の場合も同様である。

ただし、アメリカで生まれ、見るからにアメリカ人（白人）である者は、検査官と簡単な会話を交すだけで、事実上フリーパスでアメリカに入国できる。これは、英語の能力と外見から不法入国者ではないと検査官が判断するためである。また、頻繁に国境を行き来するメキシコ人のために、国境通行証取得の道も用意されている。



## (2) アリゾナ州サンルイス

カリフォルニア州サンディエゴから東に向けて、インターフェースト8号線が走っている。サンディエゴを抜けると、すぐに岩山や起伏のある丘陵地帯に入るが、100マイルほどで砂漠地帯になる。あとは延々と、同じ景色の中を巨大なトラックに挟まれながら、ひらすら東を目指すこととなるが、180マイルほど走ると、日本のプロ野球チームが毎年冬期キャンプをすることで有名な、アリゾナ州ユマにたどりつく。



ユマから、国道95号線を南に30分ほど走ると、国境の街サンルイスに着く。国境のゲート近くには、アメリカでありながら表示はすべてスペイン語のスーパー・マーケットなどがあり、メキシコから歩いて入国してきた買い物客でにぎわっている。彼等は、買い物を済ませると店の大きなカートをそのまま押して国境まで歩いて行き、そこでカートを置き去りにしてメキシコ側へ帰っていく。例によって、検問はあってないようなものである。

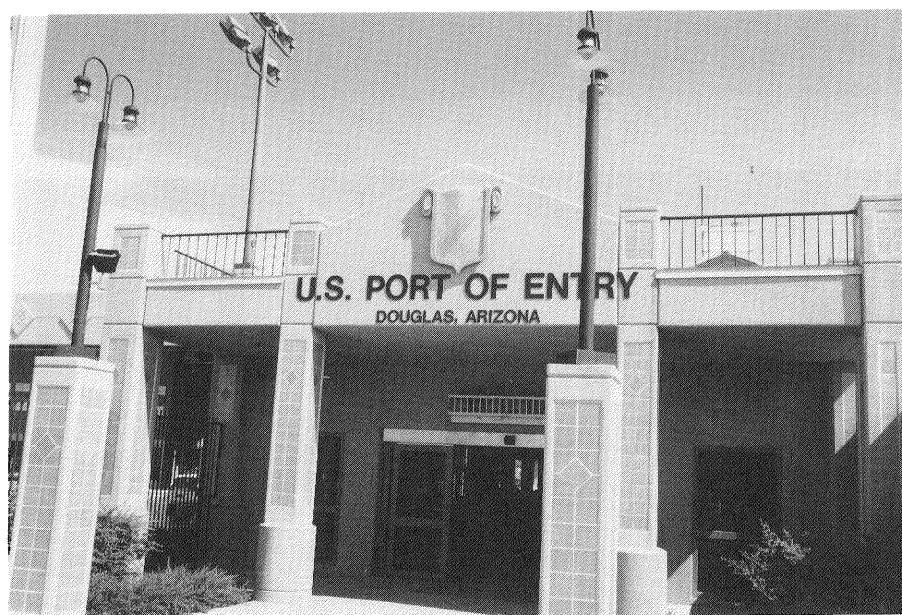


メキシコ側の街も同様にサンルイスというが、ここからアメリカ側のサンルイスに入国しようとすると、そこだけ異様に華やかな、赤い花のアーケードを通り抜けてアメリカ入国のゲートをくぐることになる。厳しい検査があるのはサンディエゴと同様である。



### (3) アリゾナ州ノガレス、ダグラス

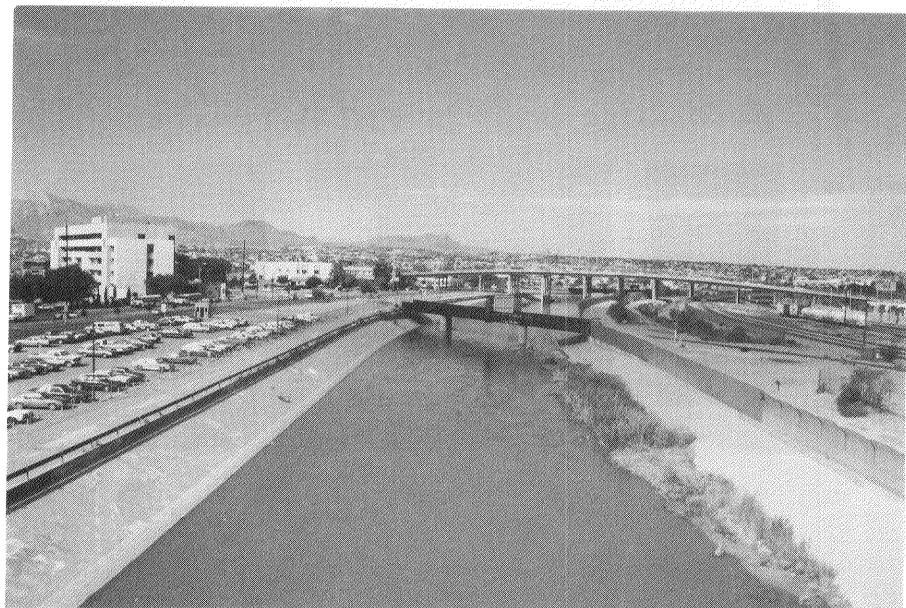
ユマからインスタート8号線に乗り、237マイルでツーソンに着く。コンベンション都市として、またアリゾナ大学の街としても有名であるが、ここでインスタート19号線に乗り換え、60マイルほどでノガレス、東に80マイルほどでダグラスに着く。



#### (4) テキサス州エルパソ

アリゾナ州ツーソンからインターフェースト10号線を東へ320マイル走ると、途中ニューメキシコ州ラスクルーセスを抜け、テキサス州エルパソに着く。

エルパソは人口約52万人、全米第22位の大都市である。国境近くには小売店が立ち並ぶ一角があり、リオグランデ川を渡る橋が2本ある。これは、どちらも一方通行になっているためであり、入国と出国で違う橋を通ることになる。アメリカ入国のゲートにはエルパソで働くメキシコ人の長い行列ができているが、アメリカ入国の審査がメキシコ国境地帯の各ゲートの中でもっとも厳しいためのようである。



### (5) テキサス州アミスタッド

リオグランデ川は、テキサス州とメキシコの国境に沿って緩やかにうねりながら進む。下流部の平坦な表情とは趣を異にし、ここデルリオ近くのアミスタッドでは、中流部でありながら豊満な自然に囲まれて大河の風格を表わし、巨大な湖となって緑豊かな表情の中に豊潤な水を湛えているが、これはアメリカとメキシコの国際共同事業によりダムが築造されたためである。ダム管理道路の真中に国境線があり、これを超えるとメキシコ軍の兵士数名が銃を構えて入出国を見守っているが、他のゲートに見られない厳重な警備がなされている点が注目される。



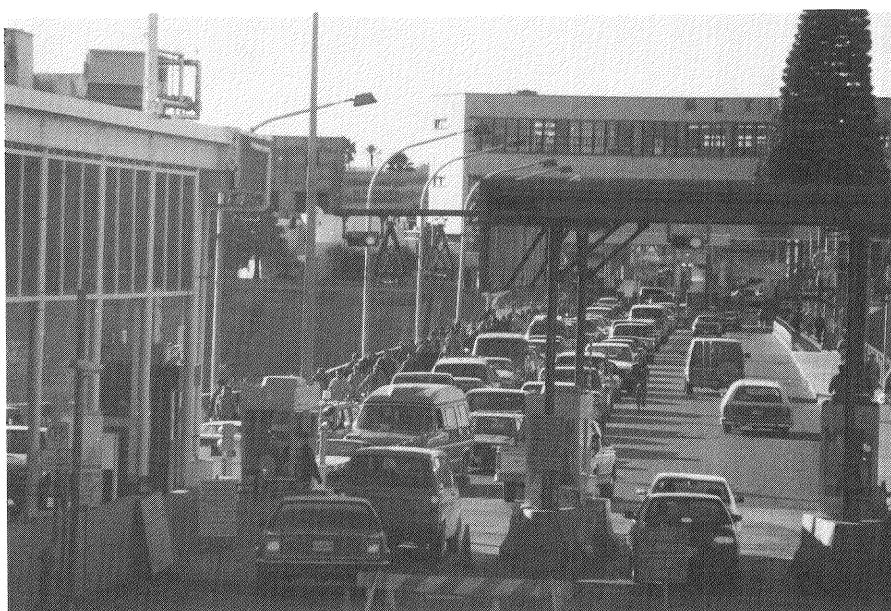
## (6) テキサス州デルリオ

アメリカの多様性は、一律であるはずの国境警備にも異なる表情をもたらしている。ここテキサス州デルリオは、テキサス大平原南西の中都市であるが、国境のゲートは非常に小さく、閑散としており、国境警備隊のピックアップトラックが暇をもてあますように停車している。



#### (7) テキサス州ラレド

テキサス州南部の大都市サンアントニオからインターフェースト35号線に乗り、150マイルでラレドに着く。このインターフェーストは、そのままメキシコ国境を越え、リオグランド川の向こうはヌエボラレドという都市が控えている。ここは古くから観光や商業都市として栄えた街であるほかアメリカ・メキシコ両国をつなぐ最大の国境ゲートとなっているだけに、常に出入国の車と人でにぎわっている。反面、麻薬所持者の不法入国者が多いためか、ゲートからやや離れたインターフェースト35号線の入口近くに厳しい検問所が設置されており、二重のチェック機能を果たしている。



### (8) テキサス州ブラウンズビル

太平洋岸の太陽のまぶしい保養都市サンディエゴを出発したメキシコ国境沿いの旅も、ここテキサス州ブラウンズビルでメキシコ湾に突き当たり、ついに終点を迎える。

この街は、単独では小さな地方都市であるが、メキシコとのさかんな貿易や、近くに住みやすい都市として評価の高いマカレンがあるなど、中規模の都市がいくつか連続して点在し、その地域的特徴を生かした経済力が最近全米の注目を集めている。



## 2 カナダ国境（ワシントン州）

アメリカとカナダの国境は、メキシコ国境とはずいぶん趣を異にする。後述する如き国境フェンスやものものしい国境警備隊のパトロールカーといったものがない。同じ英語国民であること、国民の生活水準も余り変わらないため、そもそも不法入国といった問題が生じないためであろう。

